



撮影協力／株式会社ポリシスの期待の若手二人。ウレタン樹脂の素材開発・研究を行う毛利隆人さん（29歳）（左）と松尾佑紀さん（26歳）（右）。

CONTENTS

この会社、あの技術 **ウレタン樹脂のさらなる可能性を追求
株式会社ポリシス**

ものづくりの職場から **ユニークな制度で人材育成に挑戦する
株式会社イマダ**

E-TREND **企業が積極的にサポートする「親学」とは
東海建設株式会社**

E-LINK

思いと技術を未来へ繋ぐものづくり応援誌 **Vol.6**

これぞ、ウレタン樹脂の進化型。

株式会社ポリシス



「プリンゲル」で作られた人体模型は、主に注射練習用として使われている。まるで”プリン”のような滑らかさだ。



(上) プリンゲルの原液。偶然が新しい可能性を生んだ(右上)「プリンゲル」で作られたおもちゃ(©アッシュコンセプト)(右下)同社の技術は、快適な新幹線の乗り心地を実現(下)「面白いものを作りたい」と毛利社長



ポリシスは、ウレタン樹脂(ポリウレタン)のベンチャー企業である。これまでにも8種類に及ぶ独自のウレタン樹脂を開発。さまざまな“意外な場所”で使われている。

主力製品である「ハプラゲル」は、超衝撃吸収性・防振性を実現したウレタン樹脂だ。ゴムの2倍の防振性と伸び変形500%以上の耐久性を持つこの製品は、JR西日本の新幹線車両にも採用。座席と車輪の間の衝撃吸収材・防振材として活躍しているほか、アメリカの戦闘機にもモニターの振動防止用として使われている。

ハプラゲルの改良品の開発途中で生まれたのが「プリンゲル」。分子量の計算ミスが、偶然にも新しいウレタン樹脂の誕生につながった。人の肌のような滑らかさと柔らかさを持つこの製品は、病院で看護士の注射練習用の人体模型として使用されているだけでなく、アメリカではおもちゃにも用いられ、そ

の“触り心地”が爆発的な人気を得ているという。偶然の産物は、いまや月産2tの出荷を誇るヒット材料となっている。

衝撃吸収、防振に続き、昨年には「防音」を実現した吸音材を発表した。既存のスポンジ防音材の防音率が約20%に対して、同社のウレタン樹脂の吸音材は40~50%の吸音率を達成。「ウレタン樹脂の新しい可能性をどんどん追求していきたい」と語る毛利社長。住宅・道路用での実用化を目指し、製品開発が急ピッチで進んでいる。



●株式会社ポリシス

事業内容／ウレタン樹脂の素材開発・研究
従業員数／8名 創業／2004年 所在地
／静岡県浜松市浜北区寺島2374-1

販売台数は国内と東南アジアで第1位。イマダは、フォースゲージ(荷重測定器)の分野では世界が認めるブランドであり、25カ国以上に輸出されている。

シールの剥離強度、紙の摩擦抵抗、自動車のブレーキやパワーウィンドウの強度などから、キーボードの押し心地、納豆のねばり、水稻の根の張り具合などまで。あらゆるものを見定可能にしたイマダの測定器は、さまざまな産業で使用されている。その開発と製造を支えているのが若手社員であり、若手社員の成長の一介となっているのが、そのユニークな制度の数々だ。

たとえば、毎月第4土曜日に行う「1日工場長」。若手社員が順番に、その日だけ工場長を任される。1日のテーマを掲げて、いかに達成するのかを考え、工場長として各部門に声を掛ける。ものづくりがどのような人の手を通して、どう進んでいくのか。そこにどんな苦労や課題があるのか。若手社員に肌で実感してもらおうという制度だ。

また、毎日の朝礼では、その日の担当社員がみんなを前に「いいこと」を発表している。日常会話でよく交わされる「最近、何かいいことあった?」。これを朝礼でやってしまうのだ。仕事のことでも、プライベートなことでも

OK。ある社員は「またギターを始めました」と話す、またある社員は「昨日、歯医者に行って……」と話し出す。取締役社長の今田充洋さんは言う。「その人を知ることは、社内のコミュニケーションには欠かせない。また、仕事の中で会社の代表として説明しなくてはいけないこともあります、その練習にもなっている」。

1日工場長、朝礼での「いいこと発表タイム」も、押しつけではなく、社員と世間話をしている中で“やってみよう”と始まったという。ユニーク制度の数々は、社員一人ひとりの「楽しみながら成長していきたい」という思いの表れなのかもしれない。



世界ブランドとしてイマダの測定器は進化を続ける。今年豊橋商工会議所の「第9回加工技術賞」を受賞した。

新製品「荷重-変位計測ユニット」を開発した技術開発チームの佐原義啓さん。「高度な測定を身近に」と、フォースゲージにおいて世界初でUSBの搭載に成功。生産管理などの現場で測定したデータをその場でパソコンに高速転送できる。



「荷重測定器」の組立現場にて。「1日工場長」など、製造現場における独自の勉強会を定期的に行っている。

人が育つよう「ユニーク制度」やってます。

—— 株式会社イマダ ——



親子の関係づくりを応援。 企業が取り組む「親学」。

名古屋市教育委員会では、昨年から新たな取り組みを始めている。「親学推進協力企業制度」の推進だ。親学とは「家庭教育を見直すこと」。核家族化が進み、共働き家庭が増えている今、いくら家庭教育の重要性を説いても、時間的・物理的に行動に移せない家庭も少なくない。ならば企業内で「親学」を推進してもらおうという取り組みだ。

「家族一緒に食事をしよう」「子供に仕事を見せよう」など、企業が軸となり8つのアクションプランを年間を通して遂行。当初は2010年までに100社の登録を目指していたが、

予想以上の反響があり、わずか1年で100社の企業が登録をした。

東海建設も親学推進協力制度に登録した1社である。建設業は、休日や勤務時間が不規則になりがちだ。そんな時に必要なのは「家族の理解」だ。

今年8月、同社は親学推進の一環として「子供を対象にした職場見学会」を開催した。なぜ帰りが遅くなるのか。どうして休日でも仕事に出かけていくのか。子供に理解してもらうためだ。見学会では、実際に橋梁の建設現場に出向き、父親がどんな仕事をしているのか

を説明し、子供とショベルカーに乗ったり、記念撮影をして時間を過ごした。多くの子供たちが、父の働いている姿を初めて見た。

「子供に自分の働く姿を見せられてよかったです。仕事を家に持ち込まないと勝手に決めていたのは自分で、子供は本当は知りたがっていたんだと思う」と社員たちは言う。仕事を見せてあげるだけで、子供の父親に対する見方が大きく変わる。親子の距離感がグンと近くなる。

親学とは、親が何かに気づき、親も子供と一緒にになって成長していく「きっかけづくり」なのかもしれない。

制度導入の中心を担った常務取締役・近藤正氏(右)と総務部・田中利明氏(左)。職場見学会には6家族16名が参加し、子供たちからは「お父さんはすごいなあ」という素直な感想が書かれた手紙が寄せられた。



●東海建設株式会社
事業内容／土木・鋼構造物・舗装・しゅんせつ・塗装・造園・水道施設工事等 従業員数／51名
創業／1934年 在地／名古屋市港区新船町1-1

E-LINKのWeb版「E-LINK online」でもさまざまな情報を発信しています。本誌とあわせてご覧ください。
【ものづくり企業・新世代の経営戦略】「人が育ちにくい」という中小企業の環境をいかに崩せるか（株）イマダ 取締役社長・今田充洋さん
【表紙インタビュー・20代の肖像】「自分の開発した素材が商品化されるのが夢」（株）ポリシス 毛利隆人さん
【開発ストーリーを追え!】「失敗の配合から偶然に生まれた、人肌に近いウレタン樹脂の“プリンゲル”」（株）ポリシス

●上記の最新記事のほか、E-LINKのバックナンバーや各種セミナーなどの情報がご覧になれます。<http://www.k-ktec.co.jp/elink/>

発行／ケーテック株式会社 所在地／〒431-0451 静岡県湖西市白須賀3985-2716 連絡先／電話:053-577-2002(代) E-mail: elink@k-ktec.co.jp

発行日／隔月1日発行(次号は年始のため、12月26日予定です)